

災害に強いまちづくりへ!

この度の台風15号により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。

■千葉市の被害と対応 (10月4日現在)

千葉市では、台風15号により約9万戸が停電したほか、停電に伴う熱中症等の人的被害が66件、住家921件、非住家275件、倒木1,294件、更には約7億円相当の農業被害がありました。

また、公共機関においては屋内運動場の屋根など、特に学校施設の被害が著しく、早期の復旧にあたっております。先に開催された第3回定例会の中で、それらに対応すべく約19億円の補正予算が審議され、可決成立致しました。

なお、家屋の損壊など、被災された市民の皆さまへの支援制度については、現在検討が進められております。判明しだい、情報発信に努めてまいります。市の広報にもご注目ください。

■災害時の情報について

私自身、発災後、被害を受けられた現場を中心に歩いてきました。訪問先から寄せられる様々なニーズを汲み取りながら、市当局への意見、要望を適宜行ってまいりました。中でも、東電発表の停電エリアに記載のない地域での停電(局所停電)に出くわす機会が多く、都度、行政を通じて東電への申し入れを行って参りました。

今回の災害を通し、最も痛感したのは「情報」の収集、伝達の難しさでありました。行政側は現場の被害状況などの把握に手間取っておりまして、「全く情報が来ない」「どの情報を見たらよいか分からない」との現場からの声も多くお聞きしました。情報の集約と、被災現場への伝達。課題をしっかりと整理し、必要な手立てを講じてまいります。なお、千葉市が発信する以下の情報も、これを機にご確認ください。

■「自助」「共助」が大切

千葉県南部方面を中心に、甚大な被害をもたらした今回の災害。過去の大規模災害でもそうであったように、行政のリソース(力)の多くは被害の深刻な地域に注がれるため、ご近所で、各地域で助け合うことの大切さを改めて実感致しました。日頃からの備えと、いざという時の連携。災害に強いまちづくりを目指し、「自助」「共助」の強化にも取り組みたいと思います。

■千葉市が発信する災害時の情報

市ホームページのほか、「ちばし安全・安心メール」「Twitter(千葉市広報広聴課)」「LINE(千葉市)」「Facebook(千葉市役所)」があります。

また、Yahoo!株式会社が提供する無料アプリ「Yahoo!防災速報」では、千葉市からの防災情報をプッシュ型配信しております。ご活用ください。

更に、**防災行政無線**(広報無線)屋外スピーカーから**緊急情報**が放送されます。放送した内容は市のHPで確認できるほか、ご自宅の電話などで確認することもできます。(電話番号:0180-994-999)



JR蘇我駅東口ロータリー



H17年当時に示されていた蘇我駅の将来像

蘇我副都心について

■エスカレーター、屋根の設置を要望

4月の統一選では、「蘇我」のまちについて様々なご意見を頂きました。なかでも多かったのが、駅階段へのエスカレーターの設置、西口階段、通路への屋根の設置でありました。また、乗車人員2万人以上の駅においては、東西口を自転車で往来可能なスロープが設置されております。千葉、海浜幕張、稲毛に次いで、市内で4番目の乗車人員であり、副都心でもあります。バリアフリー、利便性、地域活性化の観点からも早期の改善を求めました。

当局からは、「課題があり、副都心にふさわしいまちづくりを進める必要がある」「東口の駅前広場の再整備や再開発事業が具体化していく中で、可能性について検討していく」との答弁がありました。同駅前広場の再整備については、同駅の将来像(2段目の写真)が示されたのが14年前。一時は用地買収による再整備の話が持ち上がった時期もありましたが、現在は再び再開発事業の想定で検討が進められております。副都心の玄関口として、最低限の機能を有する駅となるよう、引き続き事業の促進を求めてまいります。

■4つの「J」を軸にブランド力の向上を

近年、蘇我副都心の特徴付ける「資源」も変化、充実しつつあります。一つに、ホームタウンでもあるプロ野球・**ジェフ**。二つに、本市を代表する産業資源、**JFEスチール**。本年は都市対抗野球において初優勝、「千葉市代表」として令和の初代王者となりました。三つに、近年ゴールデンウィークに蘇我スポーツ公園で開催されております野外ロックフェスティバル、**JapanJam**。3年目にして3日間で動員数11万人(初年度は約5万人)を超え、新たな資源として成長しつつあります。(今回の質問では、4日間開催やステージ増など、イベントの拡大についても取り上げ、要望しました。)四つに、蘇我駅は京葉線、内房線、外房線の結節点=**ジャンクション**であり、最大の利点であります。本市が目指す「ちば共創都市圏」の確立において、中心拠点となるのが蘇我であると言えます。

副都心としての更なる政策展開、エリアブランドの形成を求めたところ、当局からは「魅力は幅広いものとなりつつあり、立地特性を活かし、ちば共創都市圏の確立に貢献するまちづくりを行っていく」との答弁がありました。

今後とも、私たちのまちの発展に向け、取り組んでまいります。



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員

酒井 伸二

〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14

Tel/Fax.043-268-7120

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai_chiba@ko-mail.jp



第3回 定例会における一般質問より

第3回 定例会で一般質問に登壇！

去る9月30日、千葉市議会「令和元年 第三回定例会」において、一般質問を行いました。ぜひご覧ください！

■アドレスは以下の通り。

www.chiba-city.stream.jfit.co.jp

議員名「酒井伸二」で検索ください！

スマホや
タブレット
などでも
見られます



SDGsと市政について

SDGsとは…

2030年までに、世界中の人をだれ一人取り残さず、みんなが幸せになれる社会をつくろう。そのための17個の目標が「SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)です。国連(193カ国)で採択され、日本も目標を実現させるために取り組みを進めております。

折しも先月、国連本部で気候変動サミットが開催されました。地球温暖化の影響と思われる(今回の台風災害しかり)豪雨や干ばつなど、異常気象や自然災害が多発しておりますが、こうした事態を様々な角度から終息させる目標もSDGsに含まれております。今、自治体、企業、大学、NPOから一市民に至るまで、世界の様々な分野で、持続可能な社会や未来を思考し、行動が開始されております。



政令市20都市中11都市が、国が指定する「SDGs 未来都市」に認定されるなど、全国の自治体がSDGsの取り組みを始めるなか、本市については現時点、具体的な取り組みが確認できておりません。

私自身、これまで議会の様々な機会を通じて、市政におけるSDGsの活用を呼び掛けてまいりました。17の目標の下にある具体的な目標、169のターゲットには、貧困や格差、健康と福祉、気候変動に防災、質の高い教育など、自治体運営にも密接な関係にあるものが多分に含まれており、単なる国際協力のレベルで終えるべきではありません。市内の企業や各種団体はもとより、市民への適切な啓発や教育機関における担い手の育成などに積極的に取り組むべきであります。

また、今見えるもののみを追うといった傾向に陥りがちな政治の世界にあって、SDGsの持つ特徴、すなわち普遍性、包摂性、透明性、統合性などの視点は、大いに市政に取り入れるべきであります。

そこで今回、複数の所管部局にSDGsの認識を問うとともに、取り組みを促しました。

答弁の概要

環境局：千葉市の目指す環境像はSDGsのゴールやターゲットと多くが重なっている。次期環境基本計画において、SDGsの活用について検討を進める。

経済農政局：市内企業のSDGsの取り組み状況等の把握に努め、効果的な支援策について検討を進める。

市民局：市民活動はSDGsの理念と親和性が高い。SDGsの考え方を広めるため、より一層SDGsの周知・啓発に努める。

教育委員会：市内小中学校長あてにSDGsに関する依頼文書を発出したところ。教育現場でも関心が高まっている。管理職を対象に研修を行うとともに、幅広い教科での授業実践に努めていく。

総合政策局：SDGsに関する庁内理解の一層の浸透を図り、次期基本計画での位置づけについて検討していく。

障がい者雇用の促進を！

9月は障がい者雇用支援月間。本年6月の千葉労働局の発表によれば、障がい者の就職件数は、昨年度ベースで過去最高を記録するなど、ここ10年で見ますと精神障がい者の大幅増に伴い、2倍以上の伸びを見せております。全国的にも同様の傾向であります。一方で、本市在住の障がい者の皆さんにとって、この千葉という圏域は働く環境としてどうなのでしょうか？

近年の法改正により、段階的に法定雇用率が引き上げられておりますが、千葉県の民間企業における達成企業は約50%（一都三県では最高）。千葉市役所については、市長部局は達成しているものの教育委員会は未達成。自治体こそが範を示すべきであり、断固達成を要望しました。

また、(以前にも取り上げましたが)優先調達推進法に基づく、障がい者就労施設からの調達の現状においては、表の通り本市は最下位となっております。カウントの仕方に何か原因があるのかもしれませんが、あまりにも大きな差であり困惑致します。そこに従事する障がい者の工賃にも大きな影響を及ぼすものであり、障がい者の働く環境という意味では、本市の遅れを懸念せざるを得ません。改善策を正したところ、「施設への共同受注や商品開発の促進等を強化するほか、積極的に調達を進めていく。」との答弁がありました。今後の動向を引き続き注視していきたいと思っております。

なおその他、(障がい者にとって真に良質であるという前提ではありますが)特例子会社の誘致及び設立促進を求めるとともに、事業者に対する一層の雇用促進、職場定着支援など、本市独自の強化施策を検討するよう要望しました。

H29度障がい者就労施設等からの調達実績

政令市比較		※左欄は件数、右欄は金額(単位:千円)			
札幌	1,150	263,083	名古屋	1,212	382,913
仙台	588	66,024	京都	512	278,807
新潟	305	26,828	大阪	94	155,537
千葉	39	3,316	堺	28	57,665
さいたま	170	160,917	神戸	460	564,391
横浜	1,112	240,243	岡山	206	64,584
川崎	70	32,400	広島	170	91,052
相模原	37	5,600	北九州	666	257,499
静岡	403	33,862	福岡	465	92,608
浜松	618	55,059	熊本	269	99,479

◆村田町線の整備について

現在、市原市から村田町に入った地点で行き止まりになっておりますが(写真上)、早期開通を求める声とともに、近接する住宅団地からは、開通後の団地内の交通量にも影響があることから、新しい道路との接続について不安視する声もあります。そこで、進捗及び住宅団地との接続について確認しました。

「用地取得率は約82%。神社移転申請を神社本庁に提出したところであり、神社との土地売買契約は年度内の締結を予定。」「市道39号線は信号機のある十字交差点、同40号線は右折出来ない計画としている。」との回答で、早期に、周辺自治会へ丁寧な説明をするよう求めました。

◆蘇我4丁目の交通課題について

当該地は、北側に蘇我町線、東側に京葉道路、西側にJR内房線、南側には生実川と、四方を公共的なインフラに囲まれております。今般、住民の方々より「近接する交通手段がなく住民が利用できる交通路線を開設して欲しい。」との要望を頂きました。バス路線・バス停の新設や地域によるコミュニティバスの仕組みづくりなど、こうした交通課題への対応を確認しました。

「バス路線等の新設は依頼中であるが、バス事業者への具体的な検討材料を示す必要あり。地域の交通手段は、地域主体の取り組みが必要であり、今後の地域交通に関する計画策定のなかで適切な支援策を考えていく。」との回答。

今後とも、継続的にフォローしてまいりたいと思っております。ご意見等、お待ちしております。

地域の諸問題から

